

第 39 回 日 本 血 液 事 業 学 会 総 会

[報 告]

平成 26 年度 事業報告
平成 26 年度 収支決算
平成 28 年度 事業計画
日本血液事業学会規約改正及び
日本血液事業学会名誉会員細則の一部変更
第 40 回日本血液事業学会総会長の選出
平成 28 年度 収支予算
第 41 回日本血液事業学会総会開催地
第 42 回日本血液事業学会総会開催候補地
日本血液事業学会ホームページの開設
日本血液事業学会名誉会員の推薦

開 催 日：編集委員会・役員会・評議員会

平成 27 年 10 月 4 日(日)

会 場：大阪国際会議場

平成 26 年度日本血液事業学会事業報告

◎会員数 平成 27 年 3 月 31 日現在

A 会員	7,088 名
B 会員	51 名
合 計	7,139 名

◎学会機関紙「血液事業」の発行

第 37 卷第 1 号	2014 年 5 月	7,420 部
第 37 卷第 2 号	2014 年 8 月	7,620 部
第 37 卷第 3 号	2014 年 11 月	7,420 部
第 37 卷第 4 号	2015 年 2 月	7,420 部
合 計		29,880 部

◎第 38 回日本血液事業学会総会

第 38 回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社中四国ブロック血液センター

第 38 回日本血液事業学会総会(総会長：日本赤十字社中四国ブロック血液センター土肥博雄所長)については、中四国ブロック地区で担当させて頂きました。

日本赤十字社の広域事業運営体制も 3 年目を迎える、平成 26 年度においては、血液事業情報システム、個別 NAT、製剤自動化の導入がされ、事業の転換期が訪れています。

一方、血液事業を取り巻く環境としては、少子高齢化の進行による将来の血液不足が予想され、若年層献血者確保対策が喫緊の課題となっているほか、iPS 細胞を活用した再生医療や血漿分画事業でも新たな取り組みが始まっています。日本血液製剤機構も設立後 2 年目に入り、次第に充実するなか、従来血漿分画製剤の情報提供が大きな部分を占めていた MR 活動においても新たな考え方と取り組みが進んでいます。骨髄データバンクや臍帯血バンク事業においては、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の成立に伴い、日本赤十字社が唯一の支援団体となり新たな段階へと歩みを進めているところです。

これらの血液事業を取り巻く環境変化に対応し、より安全な血液を安定的に供給するための事業の発展と継続は、当学会において永遠の命題であります。以上のことを踏まえ、本総会では、「明日への進化」—地方からの挑戦—をテーマに掲げ、平成 26 年 10 月 29 日(水)～31 日(金)の 3 日間にわたり、広島国際会議場を会場とし開催した。

総会には 1,025 人(スタッフを除く)、会員交見会には 722 名、中四国ブロック血液センター見学には 123 名と全国多数の方々にご参加頂き、無事総会を終了した。

プログラム内容以下のとおりである。

特別講演は 4 題、特別講演 1 「臍帯血中の造血幹細胞発見秘話と最近の iPS 細胞研究」演者：中畑 龍俊(京都大学 iPS 細胞研究所副所長 臨床応用研究部門特定拠点教授)、特別講演 2 「軟骨細胞移植—その開発から保険収載まで そして次世代治療は—」演者：越智 光夫(広島大学医歯薬保健学研究院整形外科学教授)、特別講演 3 「白血病治療、その 35 年間の進歩」演者：許 泰一(広島赤十字・原爆病院血液内科部長)、特別講演 4 「日清戦争から 120 年」演者：見延 典子(作

家)で行った。

シンポジウムは9題、シンポジウム1「PC-HLA輸血の現状と課題」、シンポジウム2「信頼される製品の実現と品質保証」、シンポジウム3「今日の移植医療」、シンポジウム4「血液センターにおける輸血検査に係る技術協力」、シンポジウム5「血液製剤の安全性担保はどこまでできたか」、シンポジウム6「看護師の人材育成」、シンポジウム7「供給体制と需給管理の現状と問題点」、シンポジウム8「戦略的な医薬情報活動の今後を考える」、シンポジウム9「効果的な献血推進について」を行った。

教育講演は4題、教育講演1「血漿中のADAMTS13による血栓症の治療」演者：藤村 吉博(奈良県赤十字血液センター所長)、教育講演2「医薬品を製造する者に求められるもの」演者：櫻井信豪(独立行政法人医薬品医療機器総合機構品質管理部長)、教育講演3「わが国の肝炎ウイルス感染の疫学：現状と課題」演者：田中 純子(広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学教授)、教育講演4「採血副作用の防止対策の研究について」演者：佐竹 正博(日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所副所長)を行った。

ワークショップは1題、ワークショップ「赤十字ブランディングに向けた新たな広報活動への取り組み」を行った。

特別企画は2題、「地方からの挑戦」をテーマに掲げ、日本全国で血液事業に携わっておられる方々の日々の活動に焦点を当てた特別企画1と前総会から開始した全国各ブロック血液センター所長より推薦いただいた合計7名の演者による特別企画2「ブロック血液センター所長推薦優秀演題」を行った。

共催(ランチョン)セミナーは6題、共催セミナー1「B型肝炎ウイルス感染スクリーニング診断に関する最新の知見…求められるHBV関連マーカーの特性…」演者：井上 貴子(名古屋市立大学病院中央臨床検査部)、共催セミナー2「安全な体外循環管理を目指して—レーザー血流計の応用—」演者：江口 圭(東京女子医科大学病院臨床工学部)、共催セミナー3「血液廃棄削減と血液搬送冷蔵庫」演者：松崎 浩史(東京都赤十字血液センター)、共催セミナー4「Grifols Pioneering Sprit」演者：和田 信次(President&CEO, Grifols Japan KK)・平 力造(日本赤十字社血液事業本部)、共催セミナー5「HLA antibody test for risk reduction of TRALI」演者：Massio Manjiola(Rhode Island Blood Center)、共催セミナー6「～つなげる 愛のバトン～献血にたずさわる人たち」第1部「地域と世代を繋げる献血推進」演者：前原 恒泰(広島中央ロータリークラブ)、第2部「サンドアートパフォーマンス 癒しのとき」演者：サンドアートパフォーマンスグループSILTを行った。

一般演題は264題(口演124題、ポスター140題)が発表された。また、企業展示は37社に出展頂いた。

総会前日には学会編集委員会、学会役員会、学会評議会を開催した。また、第1日目には血液センター連盟役員会を開催した。また第2日目夕刻にはANAクラウンプラザホテル広島にて会員交見会を開催し、予定人数を超えてご参加頂いた。

平成 26 年度日本血液事業学会収支決算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	52,691,000	1. 総会費	30,153,784
		2. 役員会費	22,852
2. 補助金	0	3. 評議員会費	0
		4. 編集委員会費	0
3. 購読料収入	385,000	5. 印刷製本費	18,208,800
		6. 職員費	1,703,180
4. 利子収入	4,067	7. 旅 費	286,140
		8. 通信運搬費	1,711,058
5. その他収入	25,091,110	9. 消耗品費	179,910
		10. 印刷費	0
6. 雑収入	20,830	11. 雜 費	2,592
		12. 租税公課	6,130,300
7. 前年度繰越額	2,675,198		
計	80,867,205	計	58,398,616

収 支 差 引 額
(翌年度へ繰越)

22,468,589円

前記決算のとおり相違ありません。

平成27年3月31日

日本血液事業学会
会長 高本 滋

前記決算は正確であることを認めます。

平成27年8月18日

日本血液事業学会
会計監事 稲葉頌一

会計監事 浅井隆善

平成28年度日本血液事業学会事業計画

◎会員数

A会員	7,000名
B会員	50名
合 計	7,050名

◎学会機関紙「血液事業」の発行

第39巻第1号	2016年 5月	7,500部
第39巻第2号	2016年 8月	7,700部 (抄録集)
第39巻第3号	2016年 11月	7,500部
第39巻第4号	2017年 2月	7,500部
合 計		30,200部 発行

日本血液事業学会規約の改正及び日本血液事業学会 名誉会員細則の一部変更について

日本血液事業学会規約第4条の改正、日本血液事業学会名誉会員細則第1条の変更

(平成27年10月4日評議員会において承認)

第40回(平成28年度)日本血液事業学会総会長の選出

総会長 高 松 純 樹 先生

(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター所長)

(規約第10条)

総会の開催に当たっては会長が評議員会にはかって総会長を委嘱する。

第40回日本血液事業学会総会(総会長:高松純樹先生 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター所長)は、2016年(平成28年)10月4日(火)~6日(木)にウインクあいち(名古屋市)を会場として開催する。

平成28年度日本血液事業学会收支予算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	51,340,000	1. 総会費	32,500,000
		2. 役員会費	30,000
2. 補助金	0	3. 評議員会費	10,000
		4. 編集委員会費	10,000
3. 購読料収入	360,000	5. 印刷製本費	21,140,000
		6. 職員費	2,448,000
4. その他収入	12,500,000	7. 旅 費	280,000
		8. 通信運搬費	1,712,000
5. 雑収入	20,000	9. 消耗品費	41,000
		10. 印刷費	0
6. 利子収入	6,000	11. 雑 費	0
		12. 租税公課	5,900,000
		13. 予備費	155,000
計	64,226,000	計	64,226,000

第41回(平成29年度)日本血液事業学会総会開催地

日本赤十字社
九州ブロック血液センター管内

第42回(平成30年度)日本血液事業学会総会開催候補地

日本赤十字社
関東甲信越ブロック血液センター管内

日本血液事業学会ホームページの開設

(平成27年10月4日評議員会において承認)

日本血液事業学会名誉会員の推薦

西 本 至 先生 (前 血液事業本部長)
伊 藤 孝 先生 (前 日本赤十字社東北ブロック血液
センター所長)

(平成27年10月4日評議員会において承認)

日本血液事業学会総会開催状況

回	開催年月	開催場所	総会長	総会事務局
1	1977(S.52). 7	宮城県(仙台市)	所長 千葉修次郎	宮城県赤十字血液センター
2	1978(S.53). 6	東京都(渋谷区)	所長 大林 静男	日本赤十字社中央血液センター
3	1979(S.54). 7	神奈川県(横浜市)	所長 岩田 昌一	神奈川県赤十字血液センター
4	1980(S.55). 7	兵庫県(神戸市)	所長 今井 英世	兵庫県赤十字血液センター
5	1981(S.56). 7	岡山県(岡山市)	所長 西崎太計志	岡山県赤十字血液センター
6	1982(S.57). 7	静岡県(静岡市)	所長 野口 正輝	静岡県赤十字血液センター
7	1983(S.58). 9	福岡県(福岡市)	所長 吉成 章之	福岡県赤十字血液センター
8	1984(S.59). 9	大阪府(大阪市)	所長 田中 正好	大阪府赤十字血液センター
9	1985(S.60). 9	京都府(京都市)	所長 細井 武光	京都府赤十字血液センター
10	1986(S.61). 9	宮城県(仙台市)	所長 赤石 英	宮城県赤十字血液センター
11	1987(S.62). 9	愛知県(名古屋市)	所長 福田 常男	愛知県赤十字血液センター
12	1988(S.63). 9	広島県(広島市)	所長 宗像 寿子	広島県赤十字血液センター
13	1989(H. 1).10	熊本県(熊本市)	代行 前田 義章	熊本県赤十字血液センター
14	1990(H. 2). 9	福島県(福島市)	所長 渡辺 岩雄	福島県赤十字血液センター
15	1991(H. 3). 9	奈良県(奈良市)	所長 市場 邦通	奈良県赤十字血液センター
16	1992(H. 4). 9	東京都(北区)	所長 天木 一太	東京都赤十字血液センター
17	1993(H. 5). 9	北海道(札幌市)	所長 関口 定美	北海道赤十字血液センター
18	1994(H. 6). 9	石川県(金沢市)	所長 大川 力	石川県赤十字血液センター
19	1995(H. 7). 9	大阪府(大阪市)	北大阪所長 小川 昌昭	大阪府赤十字血液センター
20	1996(H. 8). 3	千葉県(千葉市)	所長 十字 猛夫	日本赤十字社中央血液センター
21	1997(H. 9). 9	宮崎県(宮崎市)	所長 新宮 世三	宮崎県赤十字血液センター
22	1998(H.10). 9	北海道(旭川市)	釧路所長 中澤 英輔	北海道赤十字血液センター
23	1999(H.11). 9	新潟県(新潟市)	所長 小島 健一	新潟県赤十字血液センター
24	2000(H.12). 9	岡山県(倉敷市)	所長 喜多嶋康一	岡山県赤十字血液センター
25	2001(H.13). 9	愛知県(名古屋市)	所長 小澤 和郎	愛知県赤十字血液センター
26	2002(H.14). 9	福岡県(福岡市)	所長 前田 義章	福岡県赤十字血液センター
27	2003(H.15). 9	京都府(京都市)	所長 横山 繁樹	京都府赤十字血液センター
28	2004(H.16). 9	神奈川県(横浜市)	所長 諏訪 環三	神奈川県赤十字血液センター
29	2005(H.17).10	宮城県(仙台市)	所長 舟山 完一	宮城県赤十字血液センター
30	2006(H.18).10	北海道(札幌市)	所長 池田 久實	北海道赤十字血液センター
31	2007(H.19).10	香川県(高松市)	所長 内田 立身	香川県赤十字血液センター
32	2008(H.20).10	大阪府(大阪市)	所長 柴田 弘俊	大阪府赤十字血液センター
33	2009(H.21).11	愛知県(名古屋市)	名誉所長 神谷 忠	愛知県赤十字血液センター
34	2010(H.22). 9	福岡県(福岡市)	所長 清川 博之	福岡県赤十字血液センター
35	2011(H.23).10	埼玉県(さいたま市)	所長 南 陸彦	埼玉県赤十字血液センター
36	2012(H.24).10	宮城県(仙台市)	所長 伊藤 孝	宮城県赤十字血液センター
37	2013(H.25).10	北海道(札幌市)	所長 高本 滋	北海道ブロック血液センター
38	2014(H.26).10	広島県(広島市)	所長 土肥 博雄	中四国ブロック血液センター
39	2015(H.27).10	大阪府(大阪市)	所長 河 敬世	近畿ブロック血液センター
40	2016(H.28).10	愛知県(名古屋市)	所長 高松 純樹	東海北陸ブロック血液センター